

主 題：揺るがされぬ生涯を送るために 5

聖書箇所：ピリピ人への手紙 4章7節

皆さんはいったい何があなた自身を完全に幸福にするのかご存じでしょうか？あなたにとって最善なものは何か、それに答えることができるでしょうか？あなたの生涯に起こるべき最高のこととはいったい何なのか？そして、どうしてそれが最高なことなのか？それを知っておられますか？私たち人間は皆幸福を求めて生きています。だれも不幸になりたいと思いつながら生きる人はいないでしょう。私たちのその願い、良いことが起こって欲しい、最善が常に起こって欲しいという願いが余りにも強いがゆえに、そして、私たち自身だけでなく、私たちが愛する多くの人たちに対して、そのように願うことが強いがゆえに、それを得ることができないとき、弱り、恐れ、不安を覚え、震えおののきながらこの人生を過ごすことがあるのです。私たちの心はそういった思い煩いに満たされることが多くあります。過去に起こった様々な出来事、今起こっているいろいろな事柄、未来に起こり得る可能性がある様々な問題、それらに目を向けて行くとき、私たちは恐れおののきながらこの生涯を過ごしてしまうことがあるでしょう。私たちが生きているこの社会はこのような思い煩いに満ち溢れています。そして残念なことに、私たちクリスチャンもその中にあって、恐れおののき不安に思いつながら生きていることが多くあります。私たちはよく歌います、「平和、川のように私の心にあふれている」と。けれども、そのように賛美の歌声を上げつつ、実はその裏で私たちの心は叫んでいるのです、「恐れ、心の中にあふれている」と。

けれども、聖書は私たちにはっきりと命じています、私たちは何も思い煩ってはいけなと。私たちは人生の荒波にもまれ、その強風にさらされて、あっちに行ったりこっちに行ったりとしながら、不安な人生を送るのではなく、しっかりとした土台の上に堅く立って、希望に満ち平安に満たされて生きなければいけないことを聖書は命じていたわけです。いったいどうすれば私たちはこの人生が私たちにもたらす様々なチャレンジを、恐れや思い煩いなく生き抜くことができるのでしょうか？最善だと思ふことが与えられない生涯にあって、幸いをつかみ続けることができるのでしょうか？自分の思うとおりに行かない人生の中で、平安な思いを保ち続けることができるのでしょうか？パウロはその答えを私たちに教えてくれました。彼はピリピの教会の人々に対して、彼らがどのような状況にあってても平安に満ちた生涯を送ることができるのだということを強く訴えています。そして、私たちはそのことをこれまで何度かに渡って見て来ました。もう一度、簡単に振り返って見ましょう。

私たちが今までに見たのは、このような揺るがない平安に満たされた生涯を送るために私たちが持っていなければならない必要条件でした。(1) 私たちが聖書的喜びをもっていること。パウロは4：4でこのように言っています。「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」この喜びは感情的なものではなく、神が私たちクリスチャンの最善のため、また、ご自身の栄光のために、あらゆるものを支配しているというその理解、そして、それゆえに、どのような状況の中にあっても、すべては万全であるというその理解に基づいているのです。聖書的喜びはどこから来るのか、それは神がどのような状況の中でも最善を為しておられる、私のために、そして、神の栄光のために最高のことをなさっているというその理解があるから、どんなことがあってもこれは大丈夫と言い切ることができる確信に基づいているのです。それをもっているとき私たちはどのような状況がやって来ても喜びを失うことがないのです。(2) 寛容な心をもつこと。寛容な心、または忍耐をもつということは、単に私たちが周りから様々な悪いことを受けたときそれを我慢強く、辛抱強く耐え忍ぶことだけではなく、相手の最善を思うがゆえに、人々に愛の行為を実践するということでした。だから、パウロは4：5で「**あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。**」と言いました。愛の行為、善の行為の実践によって人々に寛容な心が示されるのです。(3) 人生において正しい対応をすること。これは二つの事柄を通して教えられていました。思い煩ってはいけなとと願い事を感謝と祈りによって神に知ってもらいなさいということでした。4：6「**何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。**」。ここから私たちが学んだことは、「私たちが神に焦点を当てていなければいけない」ということです。この地上の様々なことに目を向けて、そこに思いを留めることによって私たちの行動が二つに分かれてしまうようなことがないようにと、パウロは教えたのです。私たちの心に巣くう正しくない思い煩い、不安、恐れ、心配、それらは私たちの目を神から遠のけて行きます。むしろ、現実には起こっている事柄からもたらされて来る様々な必要を、具体的に感謝の態度をもって、神に知ってもらいなさい、祈りによって私たちのことを心配してくださる神にそれらすべてを委ねる、そうすることによって私たちは人生に起こる事柄に正しい対応をすること

ができる、それがなければ私たちは平安に満ちた生涯を送ることはできないとパウロは教えたのです。

興味深いことは、この4－9節の中でパウロは7回命令形を使っています。そのうちの4回は4－6節の中に出てきます。「喜びなさい」「人々に知らせなさい」「思い煩ってはいけない」「神に知っていたきなさい」という四つです。これが必要条件でした。8－9節では残りの三つが出てきます。これは平安を得た私たちがどのようにその平安を継続的に維持して行くことができるのかを教える命令です。その間に7節があります。今日はこの7節を見て行きます。7節には命令形がありません。パウロはここで私たちに約束を与えています。平安が与えられているという約束、それを見て行きましょう。そのことを私たちが理解するとき、私たちはこの神の約束に信頼を置いて平安に満たされた生涯を送ることができるのだという確信のもとに、必要条件を満たしつつ、また、その後に必要な事柄を実践しつつ、困難な、不公平に思える人生を喜びと平安をもって生きて行くことができるようになりたいと、そのように願います。

☆平安に満ちた生涯を送るための神の約束 4：7

4：7にはこのように書かれています。「**そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。**」、神が私たちに与えようとしている平安に満ちた生涯、それは私たちクリスチャンにとって不可能なことではありません。もしかするとそのように考えることがあるかもしれませんが、これは絶対に可能なことなのです。なぜなら、神が約束してくださっているからです。神を愛する者にそれを与えると。イエスは弟子たちにこのように言われました。ヨハネ14：27「**わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。**」とこれは約束です。イエスは言われます。わたしはこの世を去って行くが、あなたがたにはわたしの平安が残されている、わたしはそれをあなたがたに豊かに与えると、その約束をしているのです。この平安の約束を考えて行きましょう。そのことを理解したいと思います。ここで四つの事柄を見て行きます。

1. 平安の約束が与えられている理由

私たちが平安に満ちた生涯を送るために、なぜそのような生涯が可能なのかという理由を知る必要があります。私たちはもしかするとこのように言っているかもしれません。「あなたは平安に満ちた生涯を送ることができますよ、なぜなら、神がそう言われているから、聖書にそう書いてあるから」と。私はそのときいつも言います、そう言われてもなかなかそのように信じることはできないと。確かにその通りだと分かるのですが、だからそれで納得できるかというところでできない部分がたくさんあります。残念ながら、私たちは愚かなのです。では、なぜそれが与えられるのでしょうか？実際にそれを信じて「神は平安を与えてくださる」と念じると私たちの心に平安が与えられるのか、そんなことは絶対にありません。魔法の呪文ではないのです。私たちがなぜそれが与えられるのかがよく分かったとき、私たちはそこに確信を持つことができるのです。多くの場合、私たちは一つの誤解をしています。私たちが平安に満ちた生涯を送ることができるのは、私たちが神に祈りを通して求める事柄が私たちに与えられること、別の言い方をすると、自分の願っていることが叶えられることが平安に満ちた生涯のカギであるということです。もしそのように思っているなら確実なことは、すべての願いが叶えられたとしても、それはむしろより大きな不安と恐れと思い煩いを抱えるようになります。なぜなら、私たちの考えること、知っていることには限界があるからです。私たちはこれが最善だということを考えますが、それ自体は間違ったことではありません。けれども、それが現実のものとなったときにそれが私たちに幸いな生涯を与えるということを、私たちはどうして知っているのでしょうか？私たちの持っている知識は余りにも限られている、私たちが持っているこの人生に対する精通度は非常に浅いのです。それゆえに、私たちは自分の生涯に何が最善であるのかを判断することは不可能なのです。もし神が私たちが願っていることをすべて与えたとするなら、私たちは決して平安に満ちた生涯を送ることはできないと言いました。なぜなら、(1) 現実には私たちがベストだと思っていることを得ることの方が少ないから、私たちは幸いにはなれません。それどころか、(2) 私たちが願っていることが必ずしも私たちに最善なことではありません。それは私たちが経験上よく知っています。そして、(3) たとえ最善だと思うことを手に入れたとしても、すぐにそれに飽きてしまつて他のものを欲しいと願います。神が私たちに与えようとする平安はそのようなものではありません。それは私の求めるものが私に与えられたときに得るものではなく、神の目的に沿って必要なものが与えられたときに得るものなのです。

では、私たちの人生における神の目的とは何でしょう？それは、私たちが苦しむこと、困難を覚えること、苦悩を通ることとは一切関係がありません。また、同時に私たちが苦しまないこと、苦難を覚えないこと、困難な人生を歩まないこととも一切関係ありません。私たちが苦しむか苦しまないかは関係がないことです。神の目的とは何か、ローマ8：26－29にそのことが記されています。「**御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。：27 人間の心を探**

り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。：28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。：29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの人々の中での長子となられるためです。」。私たちがキリストの似姿になること、それが私たちの人生に対する神の目的です。そのために神は私たちを救い、私たちはそれを目指してこの生涯を送っているのです。そして、私たちが主イエス・キリストと顔と顔を合わせたとき、そのことがほうびをして与えられるのです。このローマ8章の文脈を見ると私たちは大切なことを学びます。6－7章でパウロは罪との葛藤について話し始め、7章では自分の経験を通して、今現在も私は神の前に正しくありたいけれど、罪を犯す自分がいるというその葛藤を証しています。8章では、けれどもそこに勝利することができるのだという教えをして来ました。しかし、「弱さ」というものが現実にあったのです。その弱さを持っているゆえに、それが完全に贖われ、私たちがその弱さから解放される日を、被造物すべてがうめきつつ待ち望んでいると言いました。そしてこの26節、「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。」と、御霊もうめいているのです。弱さから解放される日を待ち望んで祈っているだけでなく、私たちを助けてくれるのです。ピリピ4：6で私たちは祈りと平安との深い関係を見ました。ローマ8章でも同じことが教えられています。祈りは神を教育するためではない、神は私たちの心を探り知っておられるから、私たちの必要は祈る前から知っておられます。だから、神のみこころがあって、私たちの願いがそれに沿うことができるように、どうぞそれを教えてください、あなたのみこころがなるようにというのが祈りでした。私たちは何を祈ればよいのか分からないときがあります。パウロはそのことをローマ8章で教えているのです。8：26をある学者が直訳したときこのように訳しています。「私たちはときにどういうふうに祈ったらよいのか、その必要に応じた祈り方が分からない、けれども、聖霊ご自身がそのうめきのうちに、ことばにすることができないことばをもって、私たちのためにとりなしをしてくださっている」と。私たちのうちにある聖霊は神のみこころに従って私たちのためにとりなしをしてくださっていると言います。

マルチン・ルターはその注解の中でこの部分をこのように語っています。「もし私たちに、私たちが祈り願っていることの反対が起こるとするなら、それは悪いことではなくてむしろ良いこと、同時に、もし私たちが願っていることがそのまますべて起こってしまうなら、それは良いことではなくて、むしろ悪いことだ。私がそれを言うのは、私たちの願望、願い、理解、それらよりも神のみこころの方が遥かに優れたものであるから」と。これは真実です。もし私たちが願っていることが与えられるとするなら、私たちはのろわれた者です。なぜなら、私たちの願いは神のみこころに沿わないことが多いからです。なぜ、平安が与えられるのでしょうか？なぜ、あらゆる状況の中で平安を持つことができるのでしょうか？どんなときにも私たちの上に神のみこころが完全に起こり、私たちがキリストに似た者となることができるようにという神の目的を達成させるために、すばらしいとりなしを為してくださっている方が私たちのうちにあり、また、私たちはその必要に応じて、自分自身のことばをもって神の前に祈りをささげることができる、そして、神はその祈りを聞いてくださり、その目的を達成してくださっているのです。不安になる材料があるのでしょうか？間違いを犯さない方が私たちを導いてくださっているのです。

なぜ私たちに平安が与えられるのでしょうか？聖書が言っているからです。でもそこには理由があるのです。神はこのように私たちを導き助けてくださっているのです。

2. 平安の源がどこにあるのか

聖書は私たちにはっきり教えています。「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、」と、神の平安、神が作り出す平安であると、あるギリシャ語の文法の本に書いてありました。これは神が私たちとともに臨在し、私たちにこの約束を与えてくださっていることを理解している者たちに与えるものです。事実、平安を作り出す神の名前は何かというと9節に記されています。「平和の神が…」と。同じことばが逆の順で出て来ます。神の平安を与えるのは平和の神なのです。なぜ神が平和の神なのでしょう？多分9節を見るとときにもこのことを話すと思いますが、この神は完全な神です。完全に支配し、完全な力をもっている、完全な知恵をもっている、神は驚くことなどない、それゆえに、神には不安のかけらもないのです。神よりも偉大なものは何一つないからです。私たちは平安をどこに求めに行くのでしょうか？どこからそれを得ることができるのでしょうか？もし、私たちが神が約束するこの完全な平安を得ようとするなら、この地上に目を向けてもそれは得ることはできません。なぜなら、これを与えることができるのは神だけだからです。私たちを贖ってくださったイエスがそれを約束してくださっているからです。ときに人々は、様々な薬によってこのような心の平安を得ようと努力します。ある人たちは人間的ないろいろなテクニックを使って心に平安を得ようとします。リラクゼーション法とか…いろいろあります。本屋にもたくさんの本が並んでいます。ときに人々は政治家に頼るかも知れません。和平がうま

く行けば平和になると…。けれども、そんなところに本当の平安はないのです。どこにあるのか、神にあるのです。神は本物の平安を完全な私たちでもっておられるから、神だけが私たちに平安を与えることができるのです。それゆえに、神との関係を正しくもっていない方には残念ながらこの平安は与えられません。神と敵対しているなら神は与えることができないのです。だから、私たちは救われたいといけないうのです。私たちはイエスのもとに来て、この方から赦しを受けることが必要だったのです。だから、イエスは言われたのです、「**あなたがたにわたしの平安を与えます。**」と。救われた者にはこの平安が豊かに与えられています。事実、御霊の実は「愛、喜び、平安、…」です。私たちはどこからこの平安が来るのかをよく知る必要があるのです。神から来るのです。だから、神は約束しているのです。神はそれを与えることができるのです。なぜなら、神はそれをあふれるばかりにもっておられるから、その方のもとに私たちは行く必要があるのです。

3. 平安の特徴をよく理解する

パウロはこんなユニークな答えをしています。「**人のすべての考えにまさる神の平安が**」と、私たちのすべての考えにまさる特徴をもっているのです。パウロがいうことはいったい何でしょう？簡単にいうなら、それは私たちのありとあらゆる理解力を越えたものであるということです。ですから、どれだけ説明しても理解できないかもしれませんが、それでも私たちはできるだけ理解しようと努力しなければいけません。はるかに越えたものであるゆえに、知ることができないのですが、私たちの問題は、今現在起こっている事柄以上のことに目を向けることができないということです。私たちの視野は狭いのです。全体像を掴むことができないがゆえに、今ここで起こっている以上のことを知ることはできません。だから、私たちの心は不安に満ちるのです。分からないから、見えないから、知ることができないからです。しかし、パウロは私たちに教えます。神はそれを支配しておられるし、神はそれを知っておられると。神の支配から逃れるものは何一つないのです。たとえ私たちがどれほど、自分の人生について、自分の置かれている状況について、自分が抱えている問題について、人間関係について、いや、自分自身について知っていると言ったとしても、その知識というのは神と比べたなら余りにも小さいものです。だから、どれだけこの世で力をもっている人でも問題を抱えているのです。彼らに問題がなくなることはないのです。彼らの支配力は神ほどのものではないからです。私たちには支配できない、手に負えない事柄があるのです。パウロが言っていることは、神の平安というのは、人間の愚かな不安に満ちた心が思いつく様々な事柄よりもはるかにすばらしいことであり、私たちが願い、感謝をもって祈るその神が備えている道は、私たちが考えるよりもはるかにすばらしいものであり、それゆえに、私たちはその方を信頼することができるのだということです。それゆえに、私たちの祈りには平安が伴うのです。

私たちに平安が与えられるのは私たちの願いが叶うからではありません。また、私たちの祈りが聞かれるからでもありません。平安が与えられるのは応えられた祈りがあるからではなく、応えてくださる神がいるからです。神の特徴にかかっているのです。パウロは私たちに、平安を作り出す神が与えるすばらしい平安というのは、私たち人間の理解力をはるかに越えたものであると言います。私たちが抱えているチャレンジはこのようなものではないでしょうか？私たちはいろいろな自分にとってふさわしくないと思う状況が出てきたとき、そこから逃れたいと思うような困難に満ちた状況が出てきたとき、その中で平安を得るためには、どうすればこの状況を取り除くことができるのかということに一生懸命時間を費やすのです。本当に知らなければいけないことは、どのようにそれを取り除くことができるかではなく、その状況の中でどのように、完全できよく支配者であられ、全能の力をもって愛をもって私たちを導かれる神が、ご自身の目的を私たちのために達成しようとしておられるのかということ、どのようにして信頼することができるのか、それを知ることです。信頼しなければいけないのです。神は言っておられます。神はあらゆることを用いて私たちの益としてくださると…。単なる慰めではないのです。聞こえのいいことばではないのです。空っぽの約束ではないのです。神の確約です。この状況の中にあってあなたの最善がなされているその信頼を私に与えてください。だから、神が与えてくださる平安は世の中の人には分からないのです。神を知らない人は状況だけを見て同情しますが、私たちは大丈夫！私を愛してくださっている神はこれを通して最善を為してくださる、だから私は恐れませんが、先を不安に思いませんと、そのように言えるのです。

多くの人たちが実際に不安を抱えて苦しんでいます。けれどもそれは彼らが置かれている状況が余りにも困難でそれを乗り切ることができないからではないのです。苦しみを覚え満足を得ることができないで人生を送っているのも、満足を得ることが不可能な状況にあるからではありません。そのような問題があるのは、私たちが神に対する信頼よりも、私たちが抱える不安や不満足のほうが大きくなっているからです。誤解しないでください。苦しい状態に置かれたときは苦しいのです。先行きが分からないから不安になります。では、それをどうするのかということが問題なのです。不安になるなということではありません。その不安、願いを神のもとに持って行って神に委ねること、どうしてそれができない

のかとパウロは訴えるのです。私たちにはできるのです。そんな特権を与えられているのです。それをするとき、私たちには私たちの理解をはるかに越えたすばらしい平安が与えられるとパウロは約束しているのです。神は言われます。わたしはあなたを見捨てることはない、常にいっしょにいて、あなたのためにいつも最善をなしていると。神はおられるのです。私たちがそれを信頼するかしないか、その選択は私たちにあるのです。

4. 平安の効果

パウロは言います。「**あなたがたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってくれます。**」と、この「守る」ということばは、兵隊が町の隅々に立ってその町を防御する、防衛する、そのようなときに用いられることばがここで使われています。ピリピの人たちはこのことばがよく分かりました。なぜなら、当時のピリピの町の周りにはローマ兵たちがそのように立っていたからです。どこを守っていたのでしょうか？パウロは「**あなたがたの心と意思**」と言います。箴言4：23を見ると「**力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。**」とあります。いのちの泉が私たちの心からわきあふれているのです。どこを守らないといけないのか、まさにここです。そこを何が守ってくださるのでしょうか？神の私たちの知識をはるかに越えたすばらしい平安が、私たちが不安になることがないように、私たちが間違った思いに満たされることがないように、私たちの心をガードし続けてくださっている、守ってくださっているのです。どうでしょう？不安になる必要があるでしょうか？恐れおののいて身動きが取れなくなってしまう必要があるでしょうか？そのような状況は私たちに必ずあります。あなたもそして、私も経験していることです。けれども、だから私は平安をもって生きることができない、幸いを得ることができない、この人生に満足できないのだと、そのように言うことは私たちにはできないのです。なぜなら、こんな私たちを守り助けてくださる神がおられ、その方を私たちは知っているからです。いろいろな困難な状況はやってきますが、私たちがそれに立ち向かう準備ができているとき、すなわち、聖書の喜びをもち、寛容な心にあふれ、私たちが人生に起こるあらゆる事柄に正しく対応して行くとき、神はすばらしい約束を与えてくださっているのです。わたしの平安があなたにある、それはあなたを守り続けると。

願わくば、ここにいる一人ひとりが、そのような平安をもってこの人生を歩んで行きたいと思い、神がそのようにあなたに働いてくださることを心から願います。